

「うそ」と「ほんと」

先日、地元の図書館の閲覧コーナーにある本を手に取ってみました。谷川俊太郎さんの「うそとほんと」という詩です。人は日常生活の中で、「うそ」と「ほんと」を使い分けながら生きています。「うそ」は、悪いことやざるいことだけではなく、時には相手を傷つけないためや、場の雰囲気をよくするために使われることもあります。一方、「ほんと」の場合、真実だけを伝えることは大切ですが、場合によっては相手を悲しませたり、自分や他人を困らせたりすることもあります。だから、人はうそとほんとを状況に応じて使い分けながら、社会の中でうまくやっていくのです。

この本の中で谷川俊太郎は、うそとほんとは対立するものではなく、人間にとてどちらも必要なものであると教えています。どちらか一方だけでは生きづらく、うそやほんとを理解しながら使うことが、円滑な人間関係や心地よい生活につながるということを、この詩は伝えています。

道徳科の「正直・誠実」の内容項目では、「ついていいうそと、ついてはいけないうそ」について、どのように考えるかを議論することもあります。どちらも明確な正解はありません。教育上は、うそは良くないと指導していますが、現実の生活に照らしてみると、難しい場面もあります。だからこそ、道徳は面白いのかもしれません。

(文責:道徳教育推進教師 久慈 利幸)

1年生の道徳科の時間

この日の授業では、好きなことを生かして絵本作家になった「なかやみわさん」の話などを通して、自分の好きなことや良いところを見つけることについて考えさせ、自分の特徴に気付こうとする態度を育てる 것을を目指しました。

主題名:すきなことを見付けよう

教材名:「すき」から生まれた「そらまめくん」

内容項目:「個性の伸長」

あらすじ:多くのこどもたちに大人気の「そらまめくん」シリーズの作者、なかやみわさんへのインタビューを基にした教材です。こどもの頃から想像したり、絵を描いたりすることが好きだったなかやさんは、大人になっても自分の好きなことを大切にすることで、絵本作家という職業に就きました。好きなことを大切にする素晴らしさを感じられる教材です。

教師の問い

好きなことをしていると、どんな気持ちになるでしょう。

こどもたちの考え方

- ・幸せな気持ち。・うれしい気持ち。
- ・楽しい気持ち。・もっと上手くなりたいという気持ち。

授業の後半では、主題名である「すきなことを見付けよう」について、あらためてこどもたちの考え方を聞き、ふり返りをしました。

教師の問い

あなたの好きなことや、いいところを見つけましょう。

こどもたちの考え方

- ・野球が好き。
- ・もっと絵が上手くなりたい。
- ・いつも明るくて優しい。

